

2024 年度 2 回目 学校関係者評価委員会報告書

会議名	学校関係者評価委員会（第二回）
開催日時	令和 7 年 3 月 17 日（月） 15:30～17:35
場所	日本児童教育専門学校 A23 教室
出席者	<p>【委員長】 花村嘉信 株式会社 NOTCH 代表取締役</p> <p>【委員】 中嶋雄一郎 社会福祉法人つぼみ会 ライフスクール 理事長 野村美奈 社会福祉法人武蔵野会 リアン文京 施設長 太田紗由里 公益財団法人児童育成協会 港区立麻布子ども中高生プラザ 小畑陽平 学校法人仙台北学園 仙台リハビリテーション専門学校 副校長 諏訪丹美 公益社団法人新宿未来創造財団 地域子ども部子ども担当 参事</p> <p>【学校】 阿久津撰 日本児童教育専門学校 副校長 鈴木八重子 日本児童教育専門学校 教務部長・総合子ども学科学科長 東郷結香 日本児童教育専門学校 保育福祉科学科長</p> <p>【事務局】 佐藤貴彦、石橋充、武田真祐美 (参加者合計 12 名)</p>
議題等	<p>1、校長挨拶 阿久津校長より挨拶。</p> <p>2、委員の紹介 出席者を紹介し、自己紹介して頂いた。</p> <p>3、「チャイルド祭」について、事務局武田より説明した。</p> <p>4、「子育てひろば」について、教務部長鈴木より説明した。</p> <p>5、「ちびっこ縁日」について、事務局石橋より説明した。</p> <p>6、「子育て支援の提案」について、校長阿久津より説明した。</p> <p>7、「日本児童教育専門学校はどのように地域と結びつくと良いのか」のテーマに基づいてご意見を頂いた。(詳細は別紙の通り)</p> <p>次回開催は令和 7 年秋を予定。</p> <p>閉 会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

別紙

学校関係者評価委員会（第二回）主な討議内容

【「日本児童教育専門学校はどのように地域と結びつくと良いのか」】

中嶋委員

私ども、民間保育所を10園運営しております、お預かりしているお子さんたちの成長はもちろんなのですが、それだけじゃなくて、地域子育てを応援する施設として地域子育て支援というのも非常に力を入れている状況でございます。

その中でこうした支援をっていうのは非常に大事になってくるかなと思います。

1つ我々の課題というのは、こういった子育て支援に参加される方々の相談をさせていただいたりアドバイスさせていただくのはもちろんですが、ここになかなか出てこれない方々をどうやって掘り起こすか、来ていただけるかっていうことを課題としていまして、何かその辺りでアドバイスがあるとしたら、どういった工夫をされているのかお聞きできればと思います。

花村委員長

ありがとうございます。今、中嶋先生からご質問いただいた、「なかなかこういう場に足を運べない保護者の方とどう接点を持つか」とうことなのですが、この件につきまして、例えば最後にご案内いただきました「ちびっこ縁日」は、かなりの方がいらっしゃるようですが、この辺にもヒントが得られるのではないかなと思ひまして、もしよろしければ、石橋様から皆様に共有いただいてもよろしいでしょうか。

石橋

まだ実施がこれからなので、出てこれない方の支援っていうところについては、まだ正式な回答はできませんが、事前にチラシ等で近隣の方々へご案内をお送りしている中で、そういった、こういった方でも大丈夫ですよとか、こういった方もぜひご参加くださいねみたいな文言を入れることでまた変わってくるかなと思ひました。

実際、お電話でもお問い合わせいただいた時に、ベビーカーでも大丈夫ですかというお電話をいただきました。その時思ったのが、気になる方々は、自分たちの今の状況、要は家庭環境で、参加していいのかわかっていう不安があるのだと思ひました。たまたま、そういう問い合わせでしたけども、例えば、ちょっと障害があるですとか、そういう方にも広く、大丈夫ですよぜひお待ちしておりますという訴求は検討してもいいのかなと感じています。

花村委員長

ありがとうございます。確かに、自分が行って良いのかなと迷ってらっしゃる方とかもいらっしゃるのですよね。

あとは、このチラシを、実際に保育園さんとかにも、お配りになったという事は、園に通ってらっしゃる保護者の方とかもいらっしゃるわけですが、園に通ってらっしゃらないとか、接点を持ってない方ほど、その接点を強化するっていうところですかね。

これからの取り組みということなので、もしよろしければ、また、実施の後に、いらっしゃった方々の例えばアンケートとか、どういうことを期待してきたかとかっていう事を、石橋さん、ご共有いただくことは可能ですか。

石橋

はい。ちょっと形はまだわかりませんが、何かしらの形で共有させていただければと思います。

花村委員長

よろしく願いいたします。

それでは、次に野村施設長、よろしいでしょうか。

野村委員

はい、ご説明ありがとうございました。

最初の2つについては、ほんとにコロナで中断されてしまったことは残念だなんていう風に、単純に感想として思いました。

やはり、うちの施設もそうですけれども、1回コロナで中断したものをその次に復活させるのは、ものすごいエネルギーがいることで、それを今回こういう風になさろうとしてらっしゃるっていうのは、本当に皆さんが思い切られたんだっていう風に思いました。

ちょっと感じたのは、この学校の専門性っていうのは、そのお子さんを育てる、そのお子さんのその保育とかその成長っていうもの、成長を支援するっていうのが皆さん方の専門性だと思っていて、それを地域にどういう風に関連させていくのかっていう視点が大事じゃないかなって。

私たちも、自分たちが地域でいろんな、それこそ本当にいろんなお祭りやミニお祭りもやったりするんですけど、人がものすごく多く来るんですね。でも、人に集まってもらってそこで終わりじゃなくて、ここ繋がつたことで地域の人たちの生活が少しでも安心できるものになったり、ここに行けば誰かがいて相談できると思ってもらえるような取り組みのためにお祭りをやっているところもあるんですね。

そういったことが、地域に関連されていったらいいなっていう風に思っています。

昼間部の方と夜間部の方が時間がずれる中で、どうやってその学生たちをこういう場に引っ張っていくのかっていうのは難しいですよ。交通費キャンペーンは、いいなって思います。交通費出してくれれば、ちょっと時間があれば来ようかなっていう風になると思うのと、やっぱりぜひ学生さんたちにこういうところで、まだ関わったことがない子どもたちや親御さんと触れ合う機会は、学生にとってとても有効というか、大事だと思います。その後保育の方に行くかどうかわからないですけども、こういう機会は、今後の将来を考えるきっかけになったりすると思うので。子育てひろばのお話を聞いた時にちょっと思ったんですけども、私は学校主導でも仕方がないんじゃないかと思うんです。ただ、その中で切り分けて、彼らをもっと主体的に何かをできるような、例えばこのコーナーは昼間部の学生たちが頑張ってるやましようとか、切り分けてでもいいから、みんなと一緒にできなくても彼らがいろんな部分で何か携わったみたいな経験は、絶対に学生の方たちにとって将来にいきると思うので、ぜひ何かしていただけたらいいなと思いました。

最後に、感想ばかりになっちゃうんですけど、この縁日っていうのはやっぱりお子さんの親御さんしか

ダメなんですよね。私もぜひ行ってみたいので。

学生さんたちがこれに携わって、また次のことを考えるようなきっかけになればいいと思いますし、この学校に入ろうと思う方たちも増えると思うので、ぜひ私たちも何かご協力できればと思います。

太田委員

私が在学中もチャイルド祭はありまして、実際に学生として参加させていただいたのですが、やはり実際、実習などに行く前に子どもたちと触れ合う場としてはすごく最適な場だったなというの感じました。

皆さん多分、弟や妹がいたりすることはあったと思うのですが、実際に子どもさんと触れ合うことはなかなかないので、学生時代にそういうチャイルド祭ですとか、ボランティアで保育園の読み聞かせとかに参加させていただいたり、あとは土曜日に保育園のアルバイトを斡旋させていただいたので、そういった面で割と実際に子どもたちと触れ合ってみて学ぶことが出来てよかったです。

やっぱり勉強をして机の上でやっているのと、子どもたち 1 人 1 人違いますし、こういう時どうしたらいいんだろうっていうような壁もあったのですが、実際にこういう縁日ですとか、子どもたちと表情を見て、面と向かって触れ合う場所はやっぱり大事だなって感じました。

今勤めている女子中高生の方も、コロナの影響で、色々イベント事をやらない時期があったようなのですが、最近はやっとアドフェスと言いまして、中高生がバンドの演奏をしたり、小学生がダンスを発表したり、親子バンドと称して、お父さんお母さんが演奏して子どもが歌うっていうのもあったり、やはり地域の方をどう巻き込めかかっていうのも、児童館の方も常に考えています。その時だけではなくて、そのイベントがあった後も、どう来てもらうかっていうのは、児童館としての課題でもあります。

小学生の上がる前までの子たちが対象に入っているんですけども、乳児さんの遊び場がない。公園があっても、大きい子たちは走り回ったりとかして遊べるんですけど、乳児さんがはいはいできる場所がないので、ご自宅もマンション等でなかなか体いっぱい乳児さんが遊べる場所がないっていうことで、インターネットなどで探されている方が多いです。

今の時代、学生さんも SNS とかに長けてらっしゃるので、Instagram とか児童館の方でもちょっと取り入れてみようかっていうのがあるので、そういった、連続した繋がりはずごく大事だなって感じたので、こういう縁日とか、これだけにしないで、何か次回に繋がるようになっていただきたい。

私もちょっと対象年齢が気になったんですけども、小学校入学前のお子様と保護者とのことですが、上の子が参加できないなら無理とか、下の子が参加できないなら行けないという事もあるので、兄弟姉妹での参加も大歓迎していただけたら良いと思います

やはり子どもたちは、すごいお兄さんお姉さんが大好きで、アルバイトのお兄さんお姉さんとか、ボランティアのお兄さんお姉さんに、人見知りの子がちょこんと乗っかったりっていうのを見たりするので、ぜひ学生さんの若い観点というか感性で、子どもたちとも接してほしいなと思ったので、どんどん、どんどん地域の方にも参加していただけたらなと思いました。

花村委員長

どうもありがとうございました。まさに太田さんが通ってらっしゃる時は、やっぴらっしゃった。

太田委員

はい、学生も楽しく参加させていただいて、提供するだけでなく一緒に楽しむという機会があったので、学校もとても協力的で、こういう風にやりたいんだけどっていうことは相談して、全て受け止めていただいたので、私たち自身もすごくいい思い出です。

何十年前の話なのですが、やっぱり学生って楽しかったなと思って、チャイルド祭に参加したり、実習でちょっと大変だったこともあったけど、壁にぶち当たって乗り越えたあの頃の事を思えば、やはり経験って大事なんだなと思います。やっぱり経験してみないと、辛いことも喜びもそうなのですが、実際やってみてわかることがあると思うので、学生さんにもぜひ、いろんな体験をしていただけたらなと思います。

花村委員長

ありがとうございます。学生さんにとっても非常に重要な取り組みとのフィードバックをいただきました。

続きまして、小畑副校長先生お願いします。

小畑委員

色々なイベントをやっている中で、本当に第一印象で感じるのは、すごく実践教育をやっているんだなっていうところです。すごく臨床力が強められるような専門学校なのだなっていう風を感じました。大事になってくるのは、せっかくいいことをやっているのだから、この教育効果をどうやってデータ化して、それを発信していくのかっていうことがすごく大事になってくるんじゃないかと思います。

例えば、先ほど臨床実習という話がありましたけども、実習に行く前にこういうイベントを行うことで、どのような教育効果が得られて、それが実習に対してどのような効果があるのかが分かるとよいと思います。実習に行った学生が困らなかったとか、実習中止になる学生がいないとか、何かそういう明確な数字でデータ化がされていくと更に良いと感じました。

あとは、イベントの中で在校生と新規学生、今度入ってくる学生もいますし、未来の学生たちもいると考えると、どういう風にこの在校生の学生たちを輝かせるか、またはこの先生たちがそのイベントで輝けるかっていうところが、今後入ってくる新規の学生たちにいい感じで映るのじゃないかなと思うので、その組み立てが大切。あとはその学生たちがどういう風に輝けるような動きをするのかということ、質の部分になってくると思うのですが、そこも1つ重要になってくるんじゃないかなと感じました。

あとはですね、見せ方として、どうやってこれをブランド化していくのかっていうところを考えていたんですけど、高校とも深い連携をすとか、例えばですけど、5年後、10年後もすぐだと思うので、あとは、中学生って、今全国的に職業理解というところをすごく重要視してる学校が増えてきているので、どうやって中学生がこの保育という分野をちゃんと理解していくのかっていうイベントはすごく重要なイベントだと思うので、中学生との連携（ボランティア）も含めて、連携をしていくっていうのも1つ、地域の貢献というところでも1つありなのかなと思います。

未来教育というキーワードで、何か打ち出せると感じました。

今は高校生からではなくて、一人の学生を中学から高校、専門学校と追っていくような状況になってい

るので、高校生から発信するよりも中学生から、もっと言えば、小学生から、アプローチをしていくような、もっとも早い段階から、こういったイベントを通じて、どんどん、どんどん、目に見える関係性を作っていくとすごくいいのじゃないかなと思います。

最後になりますが、このイベントはすごくいいイベントなので、いろんな分野の関連校やその学生たちも巻き込んで、連携を見せていくとすごく魅力的になって、専門学校の魅力発信に繋がると思います。

今は、地域連携とか医療連携とか、そういう多職種連携というのがすごく重要視されている時代なので、そこをこの学校は率先してやっているという取り組みを発信出来ると思います。

例えば、車椅子に乗った人や何かしら発達に問題があるような子どもがいた際には、保育の人とリハの人とがこういう連携を取ったとか、そういったことができるかとさらに効果的になると思いました。

花村委員長

ありがとうございます。もうアイデアが泉のように湧いてきてらっしゃるので、次の企画を考える時には先生にも入って頂いて、お力添えいただければというところでございます。

では次に諏訪参事、お願いします。

諏訪委員

私どもはどちらかというと、小学生以上のお子さん向けのイベントが多くて、逆に今伺っていて、ぜひ連携したいなと思ったくらいで、地域の団体と結びついたものが1番多いです。

例えば小学生向けに1つの授業として、新宿高校とか戸山高校とか早稲田の理工学部とかの学生さんたちが科学の実験を行って、来る小学生にちょっと教えてあげる。その時にいつも問題になるのが、「ちっちゃい子も入れていいですか」ということ。

うちは就学前のおさんの参加はお断りしています。ただ、うちには幼児体育室というのがあるので、そこでこういうお祭りをやっていただいて、ちっちゃい子たちを見ていていただいて、お兄さん、お姉さんたちは戸山高校の学生さんの実験に参加するとか、理工の学生さんの実験に参加するとか、そういう形にすると、私たちとしては、地域の学校との協力ということで、戸山高校とか理科大であるとか、名前を出すので、こちらの学校さんも、地域に協力していただいている専門学校ということでお名前を出させていただくことができるのではないかなと。

その実験教室もそうですし、サイエンスフェスタか子どもフェスタというのを年に1回必ず12月にやるんですけど、昨年度はやっぱり未就学児を断りしたので、保護者の方から、「なんでダメなのですか。うちの子は参加できるはずですよ」という風に言われました。ただ、やっぱり未就学児の方って何かがあった時大変ですし、小学生と一緒に大体教室で走り回って、何か事故があると大変ということで抑えたのですが、来年度からは未就学児も入れましょうということになっていて、何をどこまでやらせるかというのをこれから悩むところです。

それから、今度の4月12日にも、レダス祭りというのをやるのですが、これが第一武道場と第2武道場は子ども支援課が担当します。小学生が対象のこども広場では、お父さんお母さんも一緒に魚釣りゲームであるとか、スライムだとか、そういう遊びをしていいですよというコーナーがあります。ぜひアイデアをいただいて、共同で何かやればすごくいいと思いますし、それについての宣伝は、各小学校はも

ちろん、区内は全部私どもの広報を回しますので、そこに学校名を入れることが出来るので、もしかしたら学生さん募集にも繋がるかもしれません。地域連携という意味では、ぜひ一緒にやっていただければ、今後に繋がっていくのではないかと思います。

花村委員長

どうもありがとうございました。

今のお話などは、最初に中嶋理事長先生に問題提起いただいた、いかに裾野の方に届けるかみたいなどころにも繋がるお話なのかなと思いました。

私から最後に意見と言いますか、共有させていただいて、

いろんな学校さん回らせていただいている中で、リーダーシップとかボランティアを積極的に体験してもらおうということで取り組んでらっしゃるところは結構増えてきていたのですが、こういった形で地域連携を軸にイベントにまで発展してらっしゃるってことってなかなかいらっしゃらないので、非常に学びになりました。

あと、来年度のその子ども家庭庁さんの事業の枠組みの中で、保育養成校に対する就職等支援事業というのが今盛り込まれてらっしゃるのですが、それがまさに、さっきですね、小畑校長先生おっしゃったように、中学生とか高校生の体験等を通じて保育のこと学んでいただくとか、インターンシップ等の取り組みについても予算を組むって方向付けもあられるので、その先付けの取り組みなのかなという風に感じました。

私も各校回らしていただく中で、1番非常に重たいというか、重要な課題は、その生徒募集で、養成校さによっては定員5割切っているところとかも結構出てきたりですね、閉めちゃうところももうどんどん、どんどん出てきている中で、どれだけその保育専門職の魅力をお伝えいただくかという、非常に重要だなという風に体感してしまして。

昨年ですね、高校生向けの就活イベントをやってらっしゃる事業所さんと一緒にコラボさせていただいて、保育の魅力を知っていただく冊子とかを高校生に撒いて、高校の先生にヒアリングしたんですけど、高校の先生はほとんど、この業界の変化、処遇改善のこととか、どれだけその職場改善が進んでいるとかを全く知らないですね。

高校の先生が比較的辞めた方がいいっておっしゃっているっていうケースをよく聞くので、委員の皆様がおっしゃられたように、こういった場合にですね、子どもたち、家庭もそうですけど、例えば高校の先生とか中学校の先生にもですね、来ていただく流れ、組んでいただいて、この現場がどれだけ変わっていくかっていうのも知っていただくっていうのも1つかなという風には感じました。

今日、皆様方のお話を聞いて、改めて私もたくさんの学びをいただきましたが、まず冒頭で、中嶋理事長先生がおっしゃられた、その講演がなかなか出てこられない方々、ご家庭にこそ、課題はやっぱりあられると思うんですね。

そこにどうビーチしていくかっていうのは非常に重要だなという風に感じましたし、あと、野村施設長ですとか太田さんがおっしゃられた、その繋がって継続していくことが重要だと。イベントで終わらずにどう繋げていくかっていうのは非常に重要だっていう話も非常に学びになりました。

あと、小畑校長先生がおっしゃる、効果とそれをどう発信していくかっていうことと、やはり裾野である中学生、もっと言うと小学生まで広げるっていうことは、養成校さんならでは方法もあるんだろうと思

いました。先ほど諏訪参事がおっしゃったように、未就学児の子どもたちを呼んでイベントするのは結構リスクがありますよ。安全管理、危機管理。それを専門家集団である養成校がやられ、かつ地域の事業所様と連携するっていうことは、なかなかその他の団体さんでは取り組めないことだろうという風に感じましたので、委員の先生方からお伺いしたお話しを、今月末に実施された後にも、また参考にしていただければなという風に感じました。

以上、終了時間となり、散会となった。